

中谷外科病院 勤務医負担軽減計画表

業務の役割分担

No.	現状・問題点	対応方針	具体的な計画
1	看護師が実施可能となっている医療行為『薬剤投与量調整』ができていない。	看護師が薬剤投与量調整をするようにする。	看護師が可能な業務を整理し、マニュアル化する。看護職員に対する研修を実施する。
2	医師事務作業補助者が配置されていない。	医師事務作業補助者を配置する。	院長に医師事務作業補助者を配置し、書類の代行作成、カルテの代行入力等を目指す。
3	抗がん剤のミキシングを看護師が行っている。	抗がん剤のミキシングを薬剤師が行う。	薬剤師を増やし、抗がん剤のミキシングを薬剤部で行えるようにする。
4	医師の書類作成の件数が多く、負担になっている。	医師事務作業補助者を配置する。 事務で記入可能な箇所は、事務で記入する。	医師事務作業補助者を配置し、書類代行作成する。事務用に書類作成マニュアルを整備。
5	電子カルテ記載やオーダー入力に時間がかかる。	医師事務作業補助者を配置する。 セット化できるオーダーはボタンを押すと一括入力できるようにしたり、定型コメントを作成したりしてキー入力操作の軽減を図る。	医師事務作業補助者を配置し、カルテとオーダーリングの代行入力を行う。情報システム委員会にて電子カルテ、オーダーリングシステムの環境整備を推進していく。
6	初診時、再診時の問診を外来看護師が実施している	受付で事務員が患者の問診を行うことで、医師及び看護師の業務負担の軽減を図る。	受付時、患者に問診票『今日はどうされましたか』を記入してもらい、受付票・診察券と一っしょに看護師に渡す。
7	病棟の薬剤業務を看護師が行い、服薬指導を医師が行っている	薬剤師が病棟の薬剤業務および服薬指導を行う	薬剤管理指導料と病棟薬剤業務実施加算の算定を目指す